

スペイン語の生活密着型メッセージ作成システム

望月 源, 木賀 もも子
東京外国語大学 外国語学部
e-mail:motizuki@tufs.ac.jp

1. はじめに

本研究ではスペイン語の知識がない日本人が比較的簡単な操作でスペイン語による生活に密着したメッセージを作成可能にするシステムを検討し、プロトタイプシステムを作成する。

近年、日本に長期滞在や移住する外国人が増加している。特に最近の傾向としては、日系人の多いブラジルやペルーなど南米、中米のラテン系諸国から、就労目的で来日する者が急増している。こうした居住者は、日本の文化習慣をほとんど理解せず来日し、出身国での場合と同じように日常生活を送ろうとする者が多い。ところが、ラテン系諸国の生活習慣と、日本のそれとでは大きく異なる部分も多く、新たに生活圏を接することになった日本人との間でちょっとした日常生活上の摩擦が生じ社会問題化している。例えば、ゴミの分別、収集日の指定時間などのゴミの出し方や騒音に関する感覚の違いなどがあげられる。

日常生活上の問題は、一見些細なことのように思われるが、不快感を持つ当事者にとっては深刻であり、不満の蓄積が、より大きな衝突や差別問題などに発展しかねない部分がある。このような「近所の懸案事項」を解決し、お互いがより住みよい地域社会を作るためには、相互の理解を深めるとともに、新しい住人にも守るべき点は守ってもらうように情報を伝えることが必要になる。ところが、英語も日本語もほとんど理解できない者が多く、言葉の壁が存在する。ラテン系諸国の母語は、ブラジルではポルトガル語であり、ペルーなどではスペイン語であるが、日本国内でこれらの言語を操れる日本人は非常に少ない。

地方自治体による情報提供[1][2]の努力も行われているが、翻訳業者に依頼する費用がかかる上、情報の頻繁な更新や迅速な対応がとりにくいという問題がある。また、近所の懸案事項は、そもそも、それぞれの町内や集落など比較的狭いコミュニティの中で起こる問題が多いので、できればその地域内で貼り紙や回覧板で知らせるなど住民達が自身でちょっとした問題に対する速やかで細かい対応ができることが望ましい。

スペイン語やポルトガル語のようなロマンス諸語は、名詞や形容詞の性数一致や動詞の 50 以上の活用語尾変化[3][4][5]など、言語を覚える上では英語や日

本語にはない複雑さがある。しかし、逆に強い規則性が存在するので、語彙や文型を限定すれば、あらかじめメッセージの雛形を用意し、そこに具体的な主語や目的語、修飾語などを当てはめたいうで、文法的に正しい形で動詞を活用させ適切な文を作成することは、ある程度機械的な手続きで行える。

近所の懸案事項への対処に必要なメッセージは、日常生活に関連する話題であるので語彙は限定される。また、メッセージに対して求める機能は何かを「禁止したい」、「許可したい」、「誘いたい」や「依頼したい」場合が想定され、文型も特定のものに集中する。

そこで、本研究では、スペイン語をとりあげ、メッセージを生活密着型に限定した上で、スペイン語の知識が全くない人でも、手軽に文法的に正しいスペイン語のメッセージが作成可能なシステムの実現を目指す。

2. 生活密着型メッセージ

2.1. 生活密着型メッセージの定義

本研究でいう生活密着型メッセージとは、日本国内の日常生活における近所付き合いで起こりそうな事柄に対応するために、日本人が外国人居住者に向けて発信するメッセージであるとする。また、作成するメッセージ文は以下で示す「誰が」「何を」「どこ(で、に、へ)」「いつ」「どうする」から構成される。

- 「誰が」は、メッセージ文の主語であり「誰でも」「特定の誰か」「人間以外」が該当する。ただし、メッセージ文の文型によっては、「誰が」に対応する語は省略され、表層上は現れない場合もある。
- 「何を」は、話題の対象となる目的語にあたる。例えば、ゴミの捨て方を話題とする場合には、「缶を」「燃えるゴミを」などが該当する。ただし、「どうする」が自動詞であれば「何を」は存在しない。
- 「どこ(で、に、へ)」は、メッセージの作用する場所に対応し、スペイン語では「en/前置詞 el/冠詞 parque/名詞(公園で)」のように前置詞句からなるものや「aquí(ここに)」のように副詞句からなるものがあるが、本研究ではこれらを「場所の副詞的表現」と呼ぶ。
- 「いつ」は、話題の行為が行われる時間に対応し、「por/前置詞 la/冠詞 noche/名詞(午後)」

のように前置詞句からなるものや、「mañana (明日)」のように副詞句からなるものおよび、「los/冠詞 lunes/名詞 (月曜日に)」のように名詞の副詞的用法からなるものがあるが、本研究ではこれらを「時間の副詞的表現」と呼ぶ。

- 「どうする」は、話題の行為を表す述語であり、「何を」をとる他動詞ととらない他動詞からなる。

2.2. メッセージの機能

メッセージの作成者が、そのメッセージを通して読み手に働きかける「作用」のことを機能と呼ぶ。本研究では、生活密着型メッセージの機能として、以下の「禁止」「依頼」「勧誘」「許可」の4種類を扱う。

- 禁止：何かを禁じる目的で発する。
例：No tiren latas aquí.
ここに缶を捨てないで下さい。
- 依頼：何かを行ってもらう目的で発する。
例：Tiren latas a la basura, por favor.
缶はゴミ箱へ捨てて下さい。
- 勧誘(告知)：何かに誘う、知らせる目的で発する。
例：¿Por qué no vienen a la fiesta?
パーティーに来ませんか？
- 許可：何かできることを伝える目的で発する。
例：Se puede pasear con perros.
犬と散歩できます。

2.3. メッセージの話題

メッセージの作成者が伝えたい事柄のことをメッセージの話題と呼ぶ。本研究では、生活密着型メッセージとして必要になりそうな事柄として表1の話題をとりあげる。また話題によって関連するメッセージの機能は異なる。表1に扱う話題と機能の対応も示す。

表1 扱う話題と対応する機能

話題	機能	禁止	依頼	勧誘	許可
ゴミの捨て方		○	○	×	○
リサイクル促進		×	○	○	×
騒音の防止		○	○	×	×
特定場所への立入り		○	×	×	○
交通マナー		○	○	△	×
町内美化		×	○	△	×
催し物の開催		×	○	○	○
動物飼育マナー		○	○	○	×

2.4. メッセージの強弱

メッセージにはどのくらいそれを強く伝えたいのかという強弱を考えることができる。機能や話題が同一でも、身近な人に対する場合と初対面の人に対する

場合では言い方が異なり、印象も変化する。スペイン語では、文型の違いや主語「誰が」に応じた動詞の変化により、メッセージの読み手に与える語気の強さが異なる。強弱に影響する要因には次のものがある。

- 「君」と「あなた」(2人称)の違い
スペイン語には「tú/vosotros(-as)」(君/君たち)と「usted/ustedes」(あなた/あなたたち)の2種類の2人称が存在し、どちらを用いるかで文全体の印象が異なる。「tú/vosotros(-as)」は親しい間柄で用いられ、「usted/ustedes」は相手との関係に距離がある場合に用いられる。そのため、後者の方があらたまった感じになる。なお、後者は2人称であるが、対応する動詞の活用は3人称の規則を用いて変化する。
- 非人称の選択
スペイン語には主語を特定しない、非人称という形が存在する。自分も含めた誰にでも当てはまり、主語がぼかされるため強弱の度合いは弱くなる。
- 文型による表現の違い
文型の異なるいくつかの慣用句的な表現があり、それぞれ言い方の強弱に関連する。
これらの要因を考慮した上で、各機能ごとの強弱のバリエーションをまとめると表2~表5のようになる。

表2 禁止の強弱のバリエーション

主語		スペイン語表現
君 (複数)	強	No 動詞(2 単現接続法), por favor. No 動詞(2 複現接続法), por favor.
	弱	No 動詞(3 単現接続法), por favor. No 動詞(3 複現接続法), por favor.
あなた (複数)	強	Prohibido 動詞(不定形)
	↑	No 動詞(3 複現接続法), por favor.
	普	No 動詞(不定形)
	↓	No se puede 動詞(不定形)
弱	Se prohíbe 動詞(不定形)	
3人称 (複数)	—	主語 no puede 動詞(不定形) 主語 no pueden 動詞(不定形)

表3 依頼の強弱のバリエーション

主語		スペイン語表現
君 (複数)	強	動詞(2 単現命令法), por favor. 動詞(2 複現命令法), por favor.
	弱	動詞(3 単現接続法), por favor. 動詞(3 複現接続法), por favor.

表 4 勧誘の強弱のバリエーション

主語		スペイン語表現
君 (複数)	強	¿Por qué no 動詞(2 単現直説法)? ¿Por qué no 動詞(2 複現直説法)?
	弱	¿Por qué no 動詞(3 単現直説法)? ¿Por qué no 動詞(3 複現直説法)?
あなた (複数)		
誰でも	—	動詞 (1 複現直説法)

表 5 許可の強弱のバリエーション

主語		スペイン語表現
非人称	—	Se puede 動詞(不定形)
3 人称 (複数)	—	主語 puede 動詞(不定形) 主語 pueden 動詞(不定形)

2.5. メッセージ作成における言語的な問題

スペイン語でメッセージを作成する上でのその他の言語的な問題として以下の点にも注意する必要がある。

- 日本語との動詞の語彙区分の違い
日本語では同じ表現でもスペイン語では複数に語彙が分かれる場合がある。例えば、他動詞「捨てる」では置き去る場合の「dejar」(英語で言えば leave) と、投げ捨てる場合の「tirar」(throw) に分かれる。どちらの動詞が対応するかは、「何を」に依存するので目的語と対応させて選択する必要がある。
- 動詞の意味と前置詞との対応
「どこ(で, に, へ)」を意味する「場所の副詞的表現」が前置詞をとる場合に、「どうする」にあたる動詞の意味によって導かれる前置詞が決まる。例えば「捨てる」では、「dejar」では「~の中に, ~で」を意味する「en」が対応し、「tirar」では「~へ, ~に」を意味する「a」が対応する。
- 主語の人称, 数, 法, 時制と動詞の活用
主語の人称(1 人称, 2 人称, 3 人称), 数(単数, 複数), 法(直説法, 接続法, 命令法)および時制(現在, 過去, 未来, 完了)に応じて動詞が活用するので, 文法的に正しい文を作成するには, 主語に合わせて適切に動詞を活用させる必要がある。

3. システムの概要と試作

3.1. 辞書・テンプレートの準備

2 節で述べた点を踏まえつつ, スペイン語でメッセージを作成するために, 次の方針でシステム構築に必要な辞書, テンプレートを準備する。

- 2.4 節で述べたメッセージの元となるテンプレート群を 2.2 節で述べた各機能別に作成する。
- 各機能別に扱う話題を, 2.3 節で述べた組み合わせに従って用意する。
- 「どうする」に対応する動詞辞書と「いつ」に対応する時の副詞的表現(時の辞書)を, 全機能と話題に共通のものとして用意する。
- 「何を」に対応する名詞辞書と「どこで」に対応する場所の副詞的表現(場所の辞書)は個別の話題に依存するので各機能の各話題ごとに用意する。
- 各話題の「どうする」に対応する動詞が他動詞であり, 複数ある場合, 2.5 節で述べたように動詞の選択は「何を」に対応する名詞に依存する。そのため, 各話題の名詞辞書の各見出し語に対応する動詞の情報を記述しておく。
- 各話題の「どうする」に対応する動詞が自動詞であれば「何を」はないので, その旨を記述する。

3.2. メッセージの作成手順

本システムは, 基本的にシステムが表示する選択肢にユーザが答えていくことでスペイン語のメッセージを作成できるものとする。3.1 節で述べたテンプレートと各種辞書を利用した具体的なメッセージ作成手順は次のようになる。

- 禁止, 依頼, 勧誘, 許可の中から, ユーザが作成したいメッセージの機能を選択する。
- 1 で選択された機能に対応する話題の選択肢をシステムが提示し, ユーザが選択する。
- 話題に応じた「誰が」の選択肢をシステムが提示し, ユーザが選択する。
- 話題に応じた名詞辞書から「何を」の選択肢をシステムが提示し, ユーザが選択する。「何を」がいない話題の場合はスキップする。
- もし, 4 で選んだ「何を」に依存して「どうする」の動詞が複数該当する場合, 違いを示した選択肢を提示し, ユーザの選択によって決定する。
- 話題に応じた場所の辞書から「どこ(で, に, へ)」の選択肢をシステムが提示し, ユーザが選択する。なお, 2.5 節で述べた場所の副詞的表現の前置詞と動詞の対応の問題は, 5 で決定した「どうする」の動詞に応じて自動的に解決する。
- 時間の辞書から「いつ」の選択肢をシステムが提示し, ユーザが選択する。
- 1 で選んだ機能に基づくテンプレート群の中から, 3 で選んだ「誰が」に対応する部分を調べ, 強弱のバリエーションがある場合は, 希望する強さの度合いをシステムが尋ね, ユーザが決定する。

9. 最終的に決定されたテンプレートと得られた各情報を用いてメッセージの文を作成する。

3.3. システムの概要

3.1節, 3.2節で述べたシステムをまとめた概念図を図1に示す。

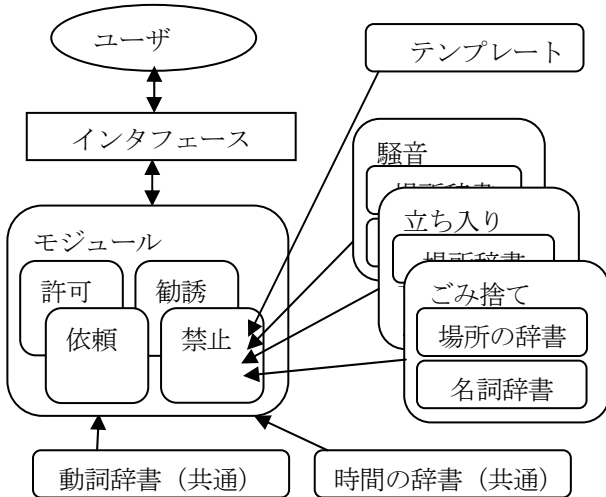


図1 システムの概念図

システムは、インタフェース部と4つの機能ごとのモジュール、各種辞書およびテンプレートからなる。動詞辞書と時間の辞書は全てのモジュール共通であり、テンプレートと話題は各モジュールごとにわかる。さらに個別の話題ごとに対応する「どうする」が他動詞であれば名詞辞書と場所の辞書が用意され、自動詞であれば、場所の辞書のみが用意される。図1では、禁止モジュールについてモジュール用のテンプレートと、禁止モジュールで扱う話題である騒音、立ち入り、ごみ捨てがあり、それぞれの各話題に場所の辞書が用意され、騒音とごみ捨てには名詞辞書が用意されていることを示している。図1には記されていないがシステム全体としては、他の3つのモジュールについても同じように個別の話題を用意し、各話題に対応するそれぞれの辞書を用意する。

3.4. プロトタイプシステムの試作

これまで述べてきた内容を元にプロトタイプシステムを試作した。現在のプロトタイプシステムは、Perlを用いて作成し、インタフェースはMS-DOSのコマンドラインを用いている。また、現時点では、扱う機能は禁止で話題はごみ捨てのみに限定されているが、「誰が」は、大人/子供/誰でも/特定の誰か/人間以外、「何を」は、可燃ごみ/不燃ごみ/缶/ビン/ペットボトル、「どこで」は、ここ/公園/海が選択肢と

して表示される。この話題では「どうする」の動詞として「捨てる」の2種類「dejar」と「tirar」があるので、「何を」で缶、ビン、ペットボトルのいずれかが選択された場合に、投げ捨てるの意味である「tirar」が選択肢として選べるようになっている。

プロトタイプシステムの実行例を図2に示す。図2には、「自分を含む誰でもが」「いつでも」「ペットボトルを」「海に」「捨てる」ことを「強く」禁止する例、「Prohibido tirar botellas de plstico al mar」海にペットボトルを（投げ）捨てるのは禁止！が示されている。



図2 プロトタイプシステム実行例

4. おわりに

本稿では、スペイン語の知識がない日本人が比較的簡単な操作でスペイン語による日本での日常生活に密着したメッセージを作成可能にするシステムを検討した。また、現在までに作成したプロトタイプシステムについても述べた。

現在のシステムは機能、話題ともに十分ではないため、今後本稿で述べた全ての機能、話題を扱えるように拡張していく必要がある。また、現在のMS-DOSではなく、今後はWWWをインタフェースにしてより使いやすさを向上させる予定である。

参考文献

- [1] 神奈川県厚木市ホームページ, <http://www2.city.atsugi.kanagawa.jp>
- [2] 群馬県太田市ホームページ, <http://www.city.ota.gunma.jp/gyosei/0020a/007/01/espanol/sodan-es.html>
- [3] 牛島信明, 富田育子, 教養のためのスペイン語, 大修館書店, 1991.
- [4] 東京外国語大学スペイン語研究室, スペイン語1年教科書, 2001
- [5] 山田善郎, 中級スペイン文法, 白水社, 1995.